

京都市中心部にある西本願寺境内の南西に、龍谷大学発祥の地がある。江戸時代の1639年に創設された「学寮」。僧侶を目指す若者たちが、浄土真宗の宗祖、親鸞聖人(1173~1263)の教えなどを学んだ60人収容の学び舎だ。

「学寮」の跡地には、明治時代に建てられた「大教校」の本館があった。2階建ての石柱の洋風建物だ。両側を取り囲むように、「大教校」の北翼・南翼が建つ。国の重要文化財に指定され、今も大宮キャンパスの教室などとして使われている。

教育改革で欧州視察

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。「浄土真宗の精神」とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

龍谷大学ホームページに記された建学の精神は、当然「学寮」当初からのものだ。学寮に入った人たちは仏道を修めた「学匠」によって指導され、浄土真宗の教義などを学んだ。

150年余が過ぎた179

設置され、79(明治12)年に西本願寺境内に、「大教校」が落成。それが、冒頭の本館、北翼、南翼だった。

この改革の原動力になった

7年に、「三業惑乱」と呼ばれる教義論争が本格化。混乱は1807年に終結し、「学寮」は集団指導体制に変わり、「学林」と呼ばれるようになった。

異国船打ち払い令(25年)が出た。一方で、鎖国を批判する声が高まった。そんな幕藩体制の揺らぎが顕著になっていったところだった。

71年12月から米国や欧州主要国をまわった若倉使節団より早かった可能性があり、視察団にとって、すべては驚き

龍谷大学短期大学

の教会設立が認められ、キリスト教は幼稚園や学校などを通じて布教、教誨活動にも熱心だった。

西本願寺は、キリスト教の布教活動に對抗するように教誨活動に力を入れ、1904年には仏教大学(現在の佛教大学とは無関係)に校名変更し、教科課程に監獄法と感化法が講義科目として組み込まれた。



大教校時代の建物が今も使われている大宮キャンパス(京都市下京区)

西本願寺の「学寮」から発展

つながる大政奉還の年(67年)から「学林」の改革が始まる。76(明治9)年、学林は「大教校」と改称され、全国7カ所に「中教校」「小教校」が

の連続だっただろう。教誨活動が特徴に

大教校などは1900(明治33)年に仏教専門大学、仏教高等中学・仏教中学となつた。このころ、西本願寺は受

刑者らの宗教的要求や心の安定を図ったり、規範意識をづけさせたりする、教誨活動に力を入れていた。

背景の一つには、キリスト教の布教活動に対する危機感があつた。

1858年に締結された日米修好通商条約によって、米国人の宗教の自由、居留地内

部部長などを務めた中垣昌美(1930~2020)の著書『社会福祉学の基礎』には、講義科目の新設についてこう書かれている。

盛という時代的反映である。それは、「生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ」という建学の精神の発露でもあつた。

1922(大正11)年、仏教大学は大学令による大学となり、校名も同時に変更。西本願寺の山号である「龍」から、

「龍谷大学」となり、初代学長には鈴木法琛が就いた。学年制ではなく、講座制が採用されていた。学科は仏教科だけだったが、社会学講座に社会学原論と社会政策の2科目を開講。担当したのは、

日本における優生学の先鞭をつけながら、その限界に気づいて社会事業に力を注いだ

海野は、当時教授だった宇野円空の尽力で、1920(大正9)年に教授として招かれた。当時41歳。産業の振興が優

先されて生活困窮者が増加、福祉の概念が「慈善事業」「感化救済」から「社会事業」へと切り替わる時代でもあつた。

海野は著作活動と研究活動にまい進。大学入りした翌年には海野社会事業研究所を創設、児童保護や婦人運動、高齢者保護、医療問題などを幅広く研究し、その成果を発表した。

熱のこもった海野の声が、教室に響いただろう。

龍谷大学に「福祉」を冠した授業(文学部社会科学部社会福祉学専攻)ができるのは1968(昭和43)年春。短期大学部に社会福祉科ができるのは、その6年前の62(昭和37)年春だった。

だが、龍谷大学における「福祉の起点」は、「社会事業」を広く研究した海野を擁

した開学の22年に求めてもおかしくない。学生も感化された。中垣の著書が、それを物語る。

開講年の22年度、社会学専攻の卒業生11人の卒業論文のテーマの中には、「不良少年の研究」「結婚論」「特殊部落の研究」などが見える。社会問題への関心の高さがうかがえた。

その後も、卒論のテーマには、「婦人職業問題」「児童保護事業研究」「貧困及び其原因」などがあり、学生の社会問題への関心が続いた。

海野の活躍は、龍谷大学にとどまらなかった。同志社大学でも「社会事業原論」を教えており、同志社大学の社会福祉の基礎の一端を担った。31(昭和6)年3月、初の女子学生が卒業。親鸞聖人の誕生日を祝う降誕会では仮装行列が行われ、大学はにぎやかだった。しかし、戦時色が濃くなるにつれて一変、軍事教練が行われるようになっていく。(関西支局・飯塚隆志)

龍谷大学 上



初代学長 鈴木法琛



海野幸徳教授

大学名「龍谷」に

1922(大正11)年、仏教大学は大学令による大学となり、校名も同時に変更。西本願寺の山号である「龍」から、

大宮(京都市)、深草(同)、瀬田(大津市)の3キャンパスに9学部1短期大学部を設置。2023(令和5)年4月、心理学部が開設される。大宮キャンパスには文学部、深草キャンパスには経済学、経営学、法学、政策学、国際学、短期大学部の5学部1短期大学部、瀬田キャンパスには社会学、農学、先端理工学の3学部がある。社会学部は25(令和7)年4月、深草キャンパスに移転する。学生数は約2万人。学長＝入澤崇。

1945（昭和20）年夏、終戦。時代は大きく変わっていく。龍谷大学も49年に新制大学となり、文学部を開設。単科大学としてスタートを切り、翌50年に短期大学部をつくり仏教科を開設、「戦後」が始動した。

社会病理学と福祉

龍大では戦後の復興期、高度経済成長時代に、非行や自殺などを扱う社会病理学に光が当たった。龍大短期大学の部長などを務めた中垣昌美著『社会福祉学の基礎』によると、48年から88年度までの卒業論文1652本のうち、153本が社会病理学のテーマで、社会学をテーマにした論文666本に次ぐ多さだった。

なぜ、社会病理学なのか。社会の変遷は、福祉課題に直結する。社会事業の研究を続け、龍大・社会福祉の基礎を築いた海野幸徳（1879～1954）らの精神の投影があったに違いない。

そして、もう一つ。阿弥陀仏の誓願たる建学の精神そのものといえる「撰取不捨」の教えだ。「撰取不捨」について、龍谷大学は次のように説明する。

龍谷大学 中

根底に撰取不捨の教え



瀬田キャンパス

翌61年、経済学部経済学科を開設し、62年春、短期大学部に社会福祉科を設けた。今に通じる「福祉の学び舎」の開門である。

60年春、京都市伏見区にあった米軍駐留地跡に、深草学舎（キャンパス）が誕生した。60年春、京都市伏見区にあった米軍駐留地跡に、深草学舎（キャンパス）が誕生した。60年春、京都市伏見区にあった米軍駐留地跡に、深草学舎（キャンパス）が誕生した。

1階に降りるエレベーターの中で、杉本は保育士の人材養成などの意義を伝えた。懇願である。杉本は、のちにこう寄稿した。



深草学舎
長上雪名教授

2年前の87年に、社会福祉士及び介護福祉士法が公布され、全国の福祉系大学や短大、専門学校のカリキュラムが次々と改訂されている、激動の時代。「龍大福祉」は、瀬田

こうした活動にも、社会福祉の理念に通じる「だれひとり取り残さず救う」（撰取不捨）という「阿弥陀仏の誓願」が生きている。（関西支局・飯塚隆志）

「阿弥陀仏の「すべての生きとし生けるものを決して見捨けない」との誓い」この「撰取不捨」を実践すれば、社会病理を改善できる。そう考えた学生が、社会病理学を選び、研究した。

短大に福祉深草からの船出。60年春、京都市伏見区にあった米軍駐留地跡に、深草学舎（キャンパス）が誕生した。



深草キャンパスの学舎

800人を超えることもあった。最初の2年は、杉本の研究室もなかったが、64年に大宮キャンパス（京都市下京区）の北覺101教室が、研究室に充てられた。

大学にも福祉、孝橋教授も。社会福祉科の科目は、社会事業概論や児童福祉論、精神衛生など多岐にわたり、担当したのは、文学部の教員や他大学の教員らだった。

異彩放つ矯正・保護課程。瀬田キャンパスができるまでに、特筆されることがあった。77年に、日本唯一の刑事政策に特化した教育プログラムとして、特別研修講座「矯正課程」（95年に「矯正・保護課程」に改称）ができたことだ。

瀬田キャンパス誕生

文学部に社会福祉学専攻が開設されてから21年後の1989（平成元）年、新たなキャンパスができた。大津市の瀬田キャンパスだ。

2002（平成14）年には、研究機関として「矯正・保護研究センター」を設置。10年には、「教育」「研究」の2分野に加えて、「社会貢献」を行う「矯正・保護総合センター」が設立され、一般市民にも教育の機会の提供がスタートした。

龍谷大学の瀬田キャンパス（大津市）ができて9年。1998（平成10）年春、社会学部社会福祉学科は、地域福祉学科と臨床福祉学科に改組された。

国際障害者年（81年）の盛り上がりで、日本でもノーマライゼーションが言葉になり、バリアフリーなどの施策が進んだ。少子高齢化や地方の過疎化が進み、住民同士が支え合って共に生きる「地域福祉」の推進が求められた。こうした中で、学科改組。「地域福祉」を冠した学科の誕生は先駆的だった。

ふれあい大学、障害者の糧に「共生」の象徴の一つに、2002年に短期大学部に開設された「ふれあい大学」がある。地域の知的障害者が学生と一緒に学ぶオープンキャンパスで、14（平成26）年に、「糸賀一雄記念賞」を受賞している。

学生と障害者がペアを組んで、演劇などを1年間かけて作り上げる。授業に出た学生は最初、障害者と距離を置くが、夏休み明けごろから、自

龍谷大学 下

「自省利他」 仏教SDGsの道

然な交流が芽生えてくる。

障害者にとつての「大学」は、普段の狭い世界から抜け出す大きなチャンス。学生は1年間、障害者は4年間学ぶ。学び終えると、障害者には学長名の修了証が出される。「大学を卒業できた」。そんな感覚も味わえる、障害者にとつては大きな誇りになる修業の道に乗せ、京都市役所近くと

この取り組みがきっかけで、06年に深草キャンパスに地域の知的障害者が働く「カフェ樹林」がオープン。ここが起点となり、龍谷大学を代表するソーシャルビジネス「革靴をはいた猫」が生まれた。17年3月、卒業を前に政策学部の魚見航大さんが創業した。カフェで一緒に働く知的障害者らと靴磨きを学ぶ中で、起業を決めた。

魚見さんは、一緒に靴磨きを学んだ障害者らと会社を軌道に乗せ、京都市役所近くと

SDGsウェブマガジン「ReACTION（リタクシオン）」は、こう紹介している。△自身に自己中心性が宿っていることを自覚し、払拭に努めることを指す「自省」と、他者への思いやりと幸福を願う精神を指す「利他」を掛け合わせた行動哲学……持続可能な社会の実現に近づく鍵となり得る▽

入澤学長は言った。「自分を成り立たせているものは、親兄弟や食べ物、水など縁あるものすべて。だから

そして25（令和7）年4月、社会学部はキャンパスを瀬田から深草に移転する。現代福祉学科と社会学科など3学科を総合社会学科（仮称）にまとめ、社会学と社会福祉学を総合した展開を行う予定だ。19年から2年間で、社会学部長を務めた山田容教授は「知識だけでなく、理念をもって実践する龍谷大学の社会福祉の歴史を引き継がないといけない」と気を引き締める。

了証だ。

「ふれあい大学」の立ち上げに関わった名誉教授の加藤博史さんは、「参加した障害者は自立意欲を高め、発語にも不自由していた施設入所者が、ふれあい大学を経て1人暮らしを始めたケースもある」と話した。

大丸京都店内に、常設店を構えている。

たきつかけは、入澤学長が17年の学長就任時に聞いた国連の広報局アウトリーチ部長によるSDGsに関する講演だった。

仏教の精神、「摂取不捨」という阿弥陀仏の誓願は、

20年、センター主催のイベントで学生らが女性の健康に関するアイデアを発表、生理由ナプキン無料化を実現するサービス「Oitr」（オイテル）の導入につながり、すでに学内トイレ220カ所に生理由ナプキンディスプレイが置かれており、今後も継続して設置を予定している。

現代福祉学科を20年に卒業し、大阪府の阪南市役所市民福祉課に勤める星沙耶香さんは、「地域全体で福祉を支えるまちづくりの大切さを大学の実習などで学びました。その実現に向け、関係者とのコミュニケーションを図っていきます」。

仏教SDGs

雨模様の9月6日昼下がりに、深草キャンパスに入澤学長を訪ねた。「社会に生じている深刻な課題のほとんどは人間の行動

「だれ一人取り残さない」というSDGsの原則に通じる。そのことに思いが至る一方で、「社会の深刻な問題は人間がもたらしたもの。その人間が変わらない限り、持続可能な社会の構築は難しい」と感じた。

「利他」の精神で社会に役立つビジネスの拠点

社会学部地域福祉学科と臨床福祉学科は2016（平成28）年に、現代福祉学科に生まれ変わった。

滋賀に、京都に、大阪に。活躍の場を広げる龍谷の福祉人。2年半後に迫った社会学部の転身を、どう生かすか。新たな道が始まろうとしている。



加藤博史 名誉教授



入澤崇 学長

自省利他について、「仏教

「利他」の精神で社会に役立つ

社会学部地域福祉学科と臨床福祉学科は2016（平成28）年に、現代福祉学科に

生まれ変わった。（関西支局・飯塚隆志）